

日本労働年鑑 第56集 1986年版
The Labour Year Book of Japan 1986

第三部 労働政策

III 社会保障

1 人生八〇年型時代への対応

人生八〇年時代社会への模索

八五年二月二六日、厚生省は「人生八〇年型社会懇談会」を開催した。人生八〇年時代の意義とそれにふさわしい社会システムについての検討を幅広い立場からおこなうため、各界の識者一人の参加を得て、懇談を開始し(座長・木村尚三郎東京大学教授)、八五年秋ごろには、中間的に議論をまとめる予定である。

内閣総理大臣の諮問機関である国民生活審議会(会長・永井道雄氏)の総合政策部会政策委員会(委員長・林雄二郎氏)では、八五年六月四日、「長寿社会への構図」と題する中間報告をおこなった。この報告では、「人生八〇年時代の新たな経済社会システム」を主題に雇用・年金、健康・福祉、教育・学習、住宅・生活環境の各システムの連携を説いている。

厚生・労働の両省の連絡会議が設置され、八四年一二月一九日、第一回会合が開催されたり、老人対策と住宅対策との連携を目標とする厚生・建設両省の研究会が八五年五月二四日から開始されるなど、各分野の有機的な連携を目的とする検討も具体化している。

八四年版厚生白書

八四年一〇月一九日、閣議に報告された「八三年度厚生行政年次報告書」(八四年版「厚生白書」)は、「人生八〇年時代の生活と健康を考える」との副題のもとに、人生八〇年時代にふさわしい社会システムの構築の必要性を訴えている。

八四年一〇月から施行された健康保険法の改正や、八五年四月成立した年金制度の改革は、人生八〇年時代に対応するための対応の一環であることを主張している。

厚生大臣の所信表明

八四年一〇月一日、厚生大臣に増岡博之氏が就任した。増岡厚生大臣は、八五年二月二一日、午前に衆議院社会労働委員会、ついで同日午後、参議院社会労働委員会において八五年度における厚生行政の主要施策についての所信表明をおこなった。

「人生八〇年時代を豊かで輝かしいものにしていくためには、長くなったライフサイクルに適合するようにさまざまな社会システムを見直していく必要がある。……すべての国民が長くなった人生を本当に長生きしてよかったといえるような、明るく活力のある福祉社会を築いていきたい」として、とくに、国民年金法等改正案、医療法改正案など提出法案の早期成立を求めるとともに、(1)健康づくり対策の推進、(2)家庭医制度、(3)中間施設の検討、(4)医療費の適正化・効率化の推進などについて触れた。

日本労働年鑑 第56集 1986年版

発行 1985年12月5日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 労働旬報社

2001年8月15日公開開始

■ ←前のページ 日本労働年鑑 1986年版(第56集)【目次】 次のページ → ■
日本労働年鑑【総合案内】

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)
